あくなき向上心、
そして世界を見据える目

株式会社オハラ 相模原市中央区小山

精密光学機器に使われる光学ガラス

携帯電話、コピー機、HDD 等のハイテク機器や、内視鏡、胃カメラ等の医療機器。私達の生活になくてはならないこれらの製品に、オハラの光学ガラスは使われている。光学ガラスは精密光学機器のレンズに使われるガラスのことで非常に高い精度が求められる。

「会社のウリはなんと言っても品質」。今回の取材で、遠藤喜美男総務課長は迷いなくこう答えた。私達はロビーに飾られていたガラス製品の透明度に驚いた。窓ガラスなどに用いられる通常のガラスは、透明に見えていても実際はかなり濁っている。ショーケースなどのガラスは、横から見た時に緑色に色づいて見えることがある。

ところが、同社のガラスは広辞苑ほどの厚さであっても透明で美しい。同社はこの透明度を生かし、美しい装飾ガラスや、情報やエネルギーをロスなく伝える光学ガラスをつくっている。また、HDD のガラス基板等に用いられるガラスセラミックスという頑丈なガラスもつくっている。

同社はこれらの高品質な製品をつくり出す素晴らしい技術を持ちながら、現状にあぐらをかくことなく、新製品の開発にも余念がない。その一つが研究開発部の寺本純さんが開発している「リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス」だ。リチウムイオンが自由に動くことができる素材で、この性質からリチウムイオン電池の電解液の代わりになると考えられている。

リチウムイオン電池は、電解液が有害であるほか、発火性の問題がある。しかし、リチウムイオン伝導性ガラスセラミックスを使えば、これらの問題を解決できる可能性がある。近い将来、安全な次世代型電池ができ、ペースメーカーや車いす、自動車や人工衛星などに搭載され私達の生活を変えるかもしれない。

また、研究開発部素材一課の吉川健さんは、屈折率が高いガラス、分散が低いガラスなど、様々な需要に応えられるよう、研究開発で日々努力を重ねている。吉川さんは「現場で働く人達に自分の考えている事を伝えるのはとても難しいが、それが上手くいき、自分の開発した物が製品になる事はとても達成感がある」と語る。

「夢実現企業」＝あくなき向上心を持って

今回の訪問を通して私達が強く感じたことは、同社からとめどなく溢れる魅力だ。工場見学ですれ違う社員の目はみな一様にキラキラと輝いていた。

オハラの前身である小原光学硝子製造所は 1935 年に東京蒲田で操業を開始し、1944 年に相模原へ移転。1985 年にオハラに社名変更し、2005 年には東証一部上場を果たした。現在、光学ガラス分野のシェア 49％は国内 1 位を誇り、この業界でリーディング・カンパニーを自負してきた。

このように「歴史を誇り、業界シェアトップ」の企業は、保守的・硬直的であり、刻一刻と変化し続ける社会への対応に遅れをとってしまうことも少なくはない。しかし、同社からはとてもそのような雰囲気を感じることはなかった。その秘密は常に変革者を志向する社風、そしてそれを具現化する生産革新運動・業務効率化運動にある。

生産革新運動は「加油（チャーヨー）作戦」をスローガンに、2004 年 11 月から全社を挙げて取り組んでいる。小さな改善から大きな仕組みの変革まで、あらゆるレベルで生産を革新することを目指している。それは礼儀作法にも及んでおり、全社員が交代で門の前に立ち、挨拶をしている。工場で働く社員の帽子に「加油作戦」の４文字が大きくプリントされていたのがとても印象的で、作戦の徹底ぶりを垣間見ることができた。

業務効率化運動は、生産の段階のみならず業務においても徹底的に効率化を図ろうとするもの。2009 年 10 月に課長級が大幅に入れ替わったという話を聞き、驚きとともにこの運動に対する本気度を感じずにはいられなかった。

「科学技術」「宇宙の発展」「情報社会」「持続可能な開発」…。一見ガラスとの繋がりが見えにくい言葉を何度も説明会で耳にした。同社が高々と掲げる長期ビジョンは「人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力」、そして「お客様とともに技術を革新する『夢実現企業』」。このビジョンに凝縮されている飽くなき向上心こそ、我々が同社に感じた「魅力」の要因なのではないだろうか。

社員を大切にする会社

会社の特色として挙げられるのが「人」のあり方である。「人」とは、社長であり社員であり、会社そのものの社風のことだ。「オハラは社員を大切にする会社です」という姿勢は、社員への細やかな心配りにも表れている。

例えば、社員の帰宅時間だ。同社は定時退社に力を入れており、業務の効率化を進めた結果、7 割以上の社員が定時に退社している。単に残業を減らすだけではなく、ワークライフバランスを実現するための試みだ。会社にいる時間だけではなく、プライベートも充実させようとしている。また、不景気の中でもリストラを一切せず、ともに乗り切ろうという姿勢をみせている。

実際に工場を見学して気付いたのは、女性社員が多いことだ。モノづくりという、体力勝負のイメージがある業界において、意外性を感じた。総務課の遠藤課長は「全社員の 4 人に 1 人が女性であり、特にここ 5，6 年は女性社員の職域が広がっている。」と説明。最初に加工工程の「ライン」を担当したのも女性社員だという。ラインとは、同社ではいわゆる分業による加工ではなく、全ての加工過程を一人で行うシステムを指す。少子高齢化で女性の力が必要とされる現在、その必要性にしっかり着目し、女性社員を重視していることがうかがえる。

最近では育児休暇に力を入れる会社も増えてきているが、同社は６年連続で、育児休暇取得率が 100％となっている。仕事に復帰してからも、例えば、出社・退社時間を 1 時間ほど遅らせたり早まらせたりすることが認められており、女性社員が仕事と育児を両立できるようにしている。その結果、最近では退職してしまう女性社員も減っている。

社員を大切にすることは、口で言うのは易しいが実際は容易ではない。100年に一度の大不況と言われ、社員を次々にリストラする大企業が多い今日、この会社の持つ、社員を守るための優しさに触れることができた。

企業からのメッセージ

「激動の時代、変化しなければ生き残っていけない。スピードを持って新しいモノ作りを創造する変革者たれ！」（株式会社オハラ　齋藤弘和）

株式会社オハラ

所在地	相模原市中央区小山１－１５－３０
代表者	齋藤　弘和
資本金	５８億５，５００万円　　創業　１９３５年
従業員数	４０４名
事業内容	光学ガラス、特殊ガラスの製造・加工・販売
電話（代表）	０４２（７７２）２１０１
ホームページ	http://www.ohara-inc.co.jp/jp/

担当　森菜津子　武山祐　上野竜成